

ひょうご

職親会だより

2007.11 10周年記念 第21号

※ 職親会（兵庫県精神保健職親会）は、精神障害者の就労を支援する事業主の会です。

【目次】

《職親会10周年記念特集》

・ごあいさつ	兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔	P 2
・祝 辞	兵庫県健康生活部障害福祉局長 兼井 孝政	P 2
	神戸市保健福祉局障害福祉部長 中西 光政	P 3
・職親会10年の歩み		P 4
・記念式典 情報交換会について		P 6
《報告1》	精神障害者の雇用・就労促進会議 (第19回全国精神保健職親研究会)	P 7
《報告2》	平成19年度全国精神障害者社会適応訓練事業研修会 ～岡山大会～	P 8
《報告3》	平成18年度兵庫県精神保健職親会事業報告	P 10
お知らせコーナー		P 12
・	全国精神障害者就労支援事業所ホームページ	
・	森本会長 兵庫県功労賞受賞	
・	会員 賛助会員 募集中	

●●●● 平成19年度近畿ブロック精神障害者就業セミナー及び 兵庫県精神保健職親会10周年記念式典の開催！（平成19年11月30日）

近年、精神障害を持つ多くの人々の就労願望が年々増大しており、社会の中で、地域の中で普通に働きたい、仕事がしたいとの思いが切実になっております。しかし、精神障害の分野での就労支援への取り組みは、身体・知的両障害分野に比べまだまだ遅れています。

そこで、発足からちょうど10周年を迎える当職親会の記念式典とあわせて、全国精神障害者就労支援事業所連合会が厚生労働省から委託を受けて実施する近畿ブロックセミナーを今年は兵庫県で開催します。

セミナーでは、特別記念講演として、哲学者の山田邦男先生より「生きることの意味・働くことの意味」を、午後には基調講演として、地域ですばらしい実践をされている精神科医師の田川精二先生より、「今、なぜ精神障害者・就労支援か？」を、そして、厚生労働省障害者雇用対策課調査官の浜島秀夫氏からは、「精神障害者の雇用機会の拡大をめざして」についてご講演いただきます。

さらに、県内の当事者、関係者によるシンポジウム「精神障害者の就労支援について～様々な資源、制度の活用～」も交えながら、精神障害者の就労に必要な支援のあり方について考えます。

また、運営についてはシンポジスト、司会、会場係、案内係、控え室係、弁当係など多くの当事者にもお手伝いいただきます。



ごあいさつ 結成10周年を迎えて

兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔

10年ひと昔という言葉がありますが、この10年間いろいろありましたが、思い出は美化されるとも言います。

10年前、全国職親会の井出会長（現在は名誉会長）から東京での研修会で「兵庫県も職親会をつくってくださいよ」と依頼され、懇親会の席でアルコールも少々入っておりましたこともあり、「よっしゃ、まかしとき」と請負って帰ってきましたが、それからいろいろ大変でした。

早速、兵庫県立精神保健福祉センターの杉浦所長（当時）さんに相談し、準備にいろいろお世話になりながら、設立にこぎつけました。設立にあたり、神戸市、尼崎市、姫路市にも杉浦先生に同行いただいて設立の説明に回ったことも記憶しております。

それから10年、兵庫県立精神保健福祉センターの担当者の方々の御尽力、県庁担当課の協力を得て、それなりの成果を上げながら経過し、「ひょうご職親会だより」も21回の発行を重ねました。

大きな出来事として、特定財源から一般財源となり、全体縮小傾向となりました。全国大会を東京大会に次いで平成16年8月、神戸舞子ピラで大勢のご参加をいただいて楽しく実施いたしました。また、天下の悪法といわれる自立支援法の施行後、就労支援の大合唱と経過しました。

現在は、本年最大の事業として、平成14年度から近畿では和歌山、大阪、京都と回っております就労支援ブロックセミナーを、11月30日、神戸の県民会館で実施することになり、準備に追われているところです。これからも皆さま方のご意見をいただきながら、一步一步進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

感謝

祝 辞



兵庫県健康生活部障害福祉局長 兼井 孝政 氏

このたび、兵庫県精神保健職親会が発足10周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴会でご協力いただいております精神障害者社会適応訓練事業は、精神障害の特性に配慮し、社会的自立を促進することを目的に、昭和47年度から県単独事業として取り組んでまいりましたが、事業開始当初から、森本会長をはじめ多くの職親の方々のご尽力を賜り、すでに30年余の歴史と実績が築かれています。

そして、平成9年に兵庫県精神保健職親会が発足してからは、社会適応訓練を通じ、精神障害者の社会復帰及び社会参加に貢献されるとともに、訓練生を受け入れる新たな協力事業主の開拓を進めるほか、会員をはじめ関係者への「職親会だより」の発行や、研修会の開催を通じて、精神保健福祉に関する知識や理解の普及に努めてこられました。さらには、関係機関との連携のもと、精神障害者の就労支援ネットワークづくりにも積極的に取り組まれるなど、精神障害者の支えとなる様々な活動を推進してこられたことに、あらためて心から感謝申し上げます。

精神障害者の雇用促進への取組は、まだこれからというところですが、精神障害者社会適応訓練事業は、事業所における様々な体験を通じて、地域社会に徐々に馴染みながら本格的な就労を目指すことのできる、精神障害のある方に大事な事業であると考えております。これまでも多くの方が

この事業を利用され、また、訓練終了後には、職親の皆様の深いご理解とご配慮によって、長期雇用につないでいただいております。

障害者雇用促進法の改正により、精神障害者も実雇用率の算定に加えられたことから、精神障害者の雇用が一層促進されることを期待しております。障害者の社会復帰や就労への支援は、県としても重要な課題の一つであると考えており、精神障害のある方々の可能性を広げることのできる施策の推進に取り組んでまいります。

会員の皆様には、これまでの実績と経験を十分に生かしていただき、今後とも、精神障害者の就労支援、社会参加の推進に変わらぬご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、兵庫県精神保健職親会のますますのご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



神戸市保健福祉局障害福祉部長 中西 光政 氏

神戸市保健福祉局障害福祉部長の中西でございます。

神戸市を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、兵庫県精神保健職親会10周年記念大会の開催、誠におめでとうございます。

また日頃は、神戸市の精神保健福祉行政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

兵庫県精神保健職親会は、精神障害者の職親として実績と熱意のある事業主の方々が中心となり、平成9年に設立をされたとお聞きしております。

その後、精神障害者を取り巻く環境が大きく変化していく中で、会員や関係者の皆様へ機関紙を発行し、また研修会等を開催し精神保健福祉に関する正しい知識の普及を図り、さらには精神障害者の社会復帰及び社会参加を促進する社会適応訓練事業を取り組み、地域でのネットワークづくり、新たな協力事業主の発掘など、精神障害者の就労支援を先頭に立って進めてこられました。

これらの取り組みに対しまして、敬意を表しますとともに、改めましてお礼申し上げます。

さて、平成16年度の、国の精神保健福祉の改革ビジョンのなかでも、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方策を進めるため、10年間で精神科病床数を約7万床（受け入れ条件が整えば退院可能な者）の減少を促すことが示されています。

そのようなことも踏まえて、昨年度（平成18年度）の精神保健福祉法の改正や障害者自立支援法が施行され、それに基づき就労支援を含めた新たな取り組みを、神戸市におきましても関係機関と連携しながら鋭意進めているところでございます。

しかしながら、新聞報道等でもありますように、先の参議院議員選挙の影響も受けて、障害者自立支援法も今後大幅な見直しが予定されているなど、障害者を取り巻く状況が不透明であることも事実でございます。

益々、兵庫県精神保健職親会の皆様をはじめ、各種団体、医療関係者、事業者、地域、行政などが情報を共有化し、連携を図りながら取り組む必要があると感じております。

さて、本日は兵庫県精神保健職親会10周年記念式典と併せまして、平成19年度精神障害者職業自立等啓発事業近畿ブロックセミナーが開催されます。

特別記念講演として、大阪府立大学名誉教授の山田邦男先生のご講演や、シンポジウム、情報交換会などが予定されております。

貴重なお話や具体的な事例などが紹介されますので、今後の精神障害者の就労支援のあり方について、是非参考にさせていただけたらと願っております。

最後になりましたが、兵庫県精神保健職親会の益々のご発展と、本日ご来場の皆様のご健勝と、そしてセミナーの盛会をご祈念いたしまして、簡単ではございますが、神戸市を代表いたしましてご挨拶とさせていただきます。

兵庫県精神保健職親会10年の歩み

年度	定期総会及び講演会の開催状況				たよりの発行	
	年月日・会場	テーマ	講師	参加者数	年月日	号
平成9年度	平成9年7月1日 兵庫県農業共済会館	夢	森下神経内科診療所院長 森下 一	128	平成 9年 9月	第 1号
					平成 10年 1月	第 2号
平成10年度	平成10年6月4日 神戸市生活学習センター	私が精神障害者と 精神保健職親会に 学んだこと	日本障害者雇用促進 協会主任カウンセラー 野中 由彦	56	平成 10年 7月	第 3号
					平成 11年 1月	第 4号
平成11年度	平成11年6月7日 兵庫県農業共済会館	心のたすきリレー	兵庫県立西脇工業高校 陸上部監督 渡辺 公二	75	平成 11年 9月	第 5号
					平成 12年 1月	第 6号
平成12年度	平成12年6月16日 兵庫県農業共済会館	食べ物が教えてく れること	料理研究家 白井 操	55	平成 12年 9月	第 7号
					平成 13年 1月	第 8号
平成13年度	平成13年6月12日 あすってふ神戸	こころの健康に ついて考えよう ～よい眠りとは～	県立精神保健福祉 センター所長 大西道生	69	平成 13年 9月	第 9号
					平成 14年 1月	第10号
平成14年度	平成14年6月21日 たちばな職員研修センター	笑い与健康 ～ユーモア川柳～	日本笑い学会会員・ 医師 隠岐 和之	62	平成 14年 9月	第11号
					平成 15年 1月	第12号
平成15年度	平成15年6月26日 たちばな職員研修センター	精神障害者理解の 手がかかり	神戸市こころの健康 センター所長 柿本 裕一	61	平成 15年 7月	第13号
					平成 16年 1月	第14号
平成16年度	平成16年8月26・27日 (「全国大会」を兼ねる) シーサイドホテル舞子ビラ神戸	当事者の「働きたい」 にどう応える？ ～兵庫から～ 「今、当事者の “働きたい”の声を 受け止めよう」	中部学院大学人間 福祉学部 教授 吉川 武彦ほか	330	平成 17年 1月	第15号
					平成 17年 3月	第16号
平成17年度	平成17年5月24日 こころのケアセンター大研修室	新時代の社会参加 『働く生活』の 実現に向けて	西南学院大学 教授 舘 暁夫	119	平成 17年10月	第17号
					平成 18年 4月	第18号
平成18年度	平成18年7月26日 こころのケアセンター大研修室	精神障害者の就労支援 の実際～兵庫障害者職 業センターの取り組み を通じて～	兵庫障害者職業センター 障害者職業力カウンセラー 田中 章夫 大崎 伸子	106	平成 19年 1月	第19号
					平成 19年 3月	第20号
平成19年度	平成19年11月30日 (「近畿ブロック精神障害者 就業セミナー」を兼ねる) 兵庫県民会館けんみんホール	「生きることの意味、 働くことの意味」 「今、なぜ精神障害者 就労支援か？」	大阪府立大学名誉教授 山田 邦男 くすのきクリニック院長 田川 精二 ほか	約 250	平成 19年11月	第21号

年度	精神障害者の就労支援に関する動き	職親会活動に関するトピックなど
平成 9年度		○設立記念講演会の開催 ○たよりの発行開始
平成 10年度		○福岡で社適事業主連絡会の開催 ○サンテレビで職親について放映 ○森本会長が兵庫県精神保健福祉審議会委員に就任（現在も就任中）
平成 11年度	○ハローワークが中心となって精神障害者ジョブガイダンス事業の開始	○ハートフェスタ～心と心のふれあい広場～に職親会として参加 ○赤穂で職親会研修会の開催「こころの病の後遺症」講師：赤穂仁泉病院長 深井光浩
平成 12年度		○兵庫障害者職業センターとの連携協議 ○神戸で職親会研修会の開催「障害者を取り巻く職業リハビリテーションへの提案」講師：兵庫 障害者職業センター 五十嵐意和保
平成 13年度		○加古川において利用者中心の地域交流会（出前研修）の開始（延べ2回） ○職親会のパネル作成
平成 14年度	○障害者就業・生活支援センター事業の実施（県下では加古川に初めて設置され、現在4ヶ所設置） ○県単独のジョブコーチ事業の実施	○県の障害者雇用・就業支援ネットワークが発足し、職親会も参画 ○豊岡において利用者中心の地域交流会の開始（延べ4回） ○県立精神保健福祉センターを中心に職親事業主も協力して精神障害者の就労支援の取り組みに関する調査実施
平成 15年度	○社会適応訓練事業が一般財源化・関係団体とともに県、神戸市に要望書提出 ○神戸市こころの健康センターを中心に社適事業を活用したコンビニエンスストアでのグループ就労の試行	○森本会長が厚生労働感謝状受賞 ○西村副会長が知事表彰受賞 ○福岡において利用者中心の地域交流会の開始（延べ2回） ○社適事業の今後のあり方も含めた精神障害者就労支援検討ワーキングの開催（県障害福祉課、県健康福祉事務所、県立精神保健福祉センター、職親会）
平成 16年度	○兵庫障害者職業センターで精神障害者の「地域就業支援基礎講座」が始まる ○障害者委託訓練事業の創設	○平成16年度全国精神障害者社会適応訓練事業研修会兵庫大会の開催 ○高嶋理事含め3名の事業主が県健康生活部長感謝状受賞 ○兵庫宣言の発信
平成 17年度	○障害者雇用促進法の改正。精神障害者も雇用率に算定 ○兵庫障害者職業センターでリワーク事業を含め精神障害者総合雇用支援事業の開始	○森本会長が厚生労働大臣表彰を受賞 ○西脇での就労支援研修会の開始（延べ2回）
平成 18年度	○障害者自立支援法の施行（就労移行支援事業の創設） ○加古川で先進的な「精神障害者の雇用・就業を支援する部会（勉強会）」が開催され、チーム支援が始まる	○地域の作業所等と連携した出前研修の開始（川西） ○事業主開拓キャンペーン実施
平成 19年度	○神戸市こころの健康センターが「精神障害者の就労支援に関する取り組み（一般事業所1000社アンケート）」報告書作成	○十周年記念式典、近畿ブロック精神障害者就業セミナー開催 ○職親会が団体として知事表彰受賞 ○森本会長が県福祉功労賞受賞 ○三田で障害者職業センターと連携した出前研修の開催

兵庫県精神保健職親会10周年記念式典、 情報交換会について

司会 社会就労センター（創）C.A.C 大原 宇勉 氏
万成病院 社会復帰施設 ひまわり寮
精神保健福祉士 田淵 泰子 氏

○10周年記念式典次第

10:00~

- 1 主催挨拶 兵庫県精神保健職親会長 森本 稔
- 2 祝辞 兵庫県健康生活部障害福祉局長 兼井 孝政 様
神戸市保健福祉局障害福祉部長 中西 光政 様
全国精神障害者就労支援事業所連合会名誉会長 井出 利彦 様
- 3 兵庫県知事表彰授与式
兵庫県知事表彰について
創立記念等にあたり、団体の活動を通じ、県民の保健衛生の向上及び福祉の増進に寄与し、他の模範となる団体に贈られるものです。
受賞団体：兵庫県精神保健職親会
- 4 兵庫県精神保健職親会長表彰授与式
兵庫県精神保健職親会長表彰について

永年にわたり精神障害者社会適応訓練事業所及び当会役員として精神障害者の社会復帰と就労支援に努め精神保健福祉の推進に尽くされましたその功績を讃え創立十周年にあたり、会長から各役員に感謝と慰労の気持ちをこめて贈ります。

西村商店	西村 稜威雄
(株)エルゼ神戸	石井 建三
(有)米ログリーンナーセリー	米口 守
(株)伸和青果食品	細見 勝
高嶋園芸	高嶋 秀忠
(株)金森商店	上川 雄吾
(株)S. G. U	後藤 悦司
(有)なかや	鳥居 嘉夫
(株)福井電機	福井 護

○情報交換会次第

17:30

情報交換会開会

はじまりのあいさつ 兵庫県立精神保健福祉センター 酒井所長

乾杯 兵庫県精神保健職親会役員

会食、歓談

関係者から一言

おわりのあいさつ 神戸市こころの健康センター 柿本所長

19:30

閉会



★ in 東京 (平成19年5月)

精神障害者の雇用・就労促進会議

「精神障害者の雇用・就労促進会議」(第19回全国精神保健職親研究会)

平成19年5月25日(金)～26日(土)にかけて、平成19年度全国精神保健職親研究会が東京都新宿区にある就労支援センター「街」で開催されました。参加者は60名程でしたが、講演者やシンポジストを近くに感じる一体感のある会議でした。

●講演① 「就労支援活動の将来展望～職親連合会から事業所連合会～」

大場俊孝氏 全国精神障害者就労支援事業所連合会理事長
(株式会社 大場製作所 代表取締役)

- ◆最近の傾向として、精神障害者も雇用率の算定対象になり、就労数が増加した。
また、大企業(特例子会社)、医療機関の関心度も高くなり、働き方の選択肢も増えてきた。
一方で地域格差もあり、地方は困惑している。
- ◆大場製作所では、病気をオープンにしてもらっての雇用なので、相談を受けやすい。また、訓練だけで終わらず、雇用へチャレンジするよう支援している。
- ◆支援体制があれば、働くことができることを社会に知ってもらいたい。また、定着するための支援も必要である。

●シンポジウムⅠ 「就労支援のネットワークを広げよう～各地の実践から」

佐藤仁氏 宮城県・栗原市保健福祉部健康推進課長

「〇〇センター」を作るのではなく、栗原市就労支援ネットワーク会議を立ち上げてセミナーを開催している。メディアを活用して市役所内外に周知し、平成19年度には、市の新規事業として「精神障害者就労移行支援調査研究事業」を予算化した。

松田由紀子氏 世田谷区精神障害者就労支援センターしごとねっと

1つの事業所で抱えこむのではなく、組織と組織のネットワークによって支援している。
それは、医療、保健、福祉、労働の連携。就労支援センターとともにあるネットワークである。

貞丸けい子氏 神戸公共職業安定所ジョブガイダンス事業コーディネーター

ハローワークは情報の宝庫。病院や施設の職員の見学研修も受付けている。
労働サイドの目と福祉サイドの目をマッチングさせることが重要。
アフターワークの会を実施し、当事者、支援者が一緒になって労を労っている。

●基調報告 「精神障害者の就労支援をどう進めるか」

武田牧子氏 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課地域移行支援専門官

- ◆地域の中にはいっぱい仕事がある。良い仕事であれば誰がやっても良い。
- ◆社会の中でしか学べないことはたくさんある。
- ◆能力ではなく気持ちのハードルを乗り越えることが大切。

精神障害者の特徴を生かす

就労後も継続支援が大切であり、相談しやすい関係づくり、環境に配慮する。

失敗しても安心して戻れる場所の確保が必要である。

河野聡子氏 精神障害者能力開発訓練施設・ジョブサポートえひめ

松山高等技術専門校の総合実務科として、ハローワーク・松山高等技術専門校と連携しながら就労を目指して訓練を実施している。訓練期間は2年間。

①病気・障害の理解、②働くことの意味の理解、③働くための体力づくり、④職場実習などを通じての就労定着支援を行っている。

越川睦美氏 社会福祉法人ともいき会ウィズ就労支援センター

障害の様態に応じた多様な委託訓練

訓練を始めるときには、「あきらめない」「できるところまでやってみよう」がキーワード。

就労に結びつくために、地域で支える体制づくり

働き続けるために、本人を中心とした地域ネットワーク

助走期間の重要性 「働きたい」と「就労」の間に。



平成19年9月6日～7日、岡山市内の岡山国際ホテルにおいて精神障害者社会適応訓練事業・岡山大会が行われました。内容の濃い聴きごたえのある講義ばかりでした。一部ご報告します。

●講演①

「自立支援法と労働施策を活用した精神障害者の就労支援」

武田牧子氏 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部障害福祉課地域移行支援専門官

講師の武田氏は、20年近く、島根県で精神障害者支援に携ってきた方だそうです。

◆自立支援法における就労支援

福祉・介護のパラダイムに転換が起こっている。重度障害の方に限定したサービスから生活のしづらさをもつ方すべてを対象にする（普遍化）、措置から契約へ、都道府県と市町村の二分化から市町村中心へ、3障害の一元化、応益負担、在宅重視等。

自立支援法の中では就労支援対策として、一般就労を目指す「就労移行支援」、支援を受けながら働く「就労継続支援（A型【雇用契約に基づく就労】・B型【訓練を重視】）」が定められている。就労継続支援A型は株式会社でも事業所になることができ、職親の方も対象となる。

◆就労支援の一層の取り組み

相談支援・就労支援・住まいと暮らしの支援がネットワーク（ハローワークを中心に福祉施設等、障害者就労・生活支援センター、都道府県、市町村等）でつながり、連携することの重要性が強調された。

社会適応訓練事業は、昭和57年より通院患者リハビリテーション事業として制度化されて以降、精神障害者の職業リハビリテーションとして大きな役割を果たし続けてきた。今後は自立支援法や労働関係就労支援策（トライアル雇用、ジョブコーチ等）を活用し、さらに有効な制度となるよう新たな役割を担わなければならない。

●講演② 「精神障害のある人の就業を進めるために」

舘暁夫氏 西南学院大学

「社会適応訓練を就労の可能性につなげるには」という演題の予定でしたが、社適に限定せず広く就労についてお話いただきました。

◆『その人の力＝本人の持つ力＋環境の支援力』

「環境の支援力」を高めることが重要。特に就業と生活の一体的・継続的支援を長期的に提供すること。また、当事者の支えあい（ピアヘルプ）も有効である。

◆「よい実践」には「よい支え」が必ずある。実際に最低賃金が保証されている一般事業所（職親）の例や、小規模作業所兼有限会社として機能している例を挙げられた。

◆「支援があれば働ける」という哲学を持ち、支えがあっても自立ととらえるべきである。

●フォーラム 「～支援があれば働ける～当事者の思い」

吉本美和氏 グリーンプラネット尾崎当事者 他

16年前発症してから、入院、作業所・社適の利用を経て就職された当事者の吉本さんの経験を中心に、保健所、職親会、作業所（さつき会）、事業所（グリーンプラネット尾崎）、病院、保健センター、ハローワークからそれぞれお話いただきました。

吉本さんは数回の入退院を経て、行きつ戻りつしていたが、作業所で信頼できる指導員と出会い色々なことに挑戦をしていきました。そんな中、職親である「グリーンプラネット尾崎」に社適で訓練に行き、正式に入社となったそうです。

前は「最後まで投げ出さずにやることが大事」と思っていたけれど、今は「半日でも少しの時間でも休まず続けていくこと」がずっといいと思う。もうちょっと頑張ってみようかなの気持ちが大事。などの言葉がとても現実的で印象に残った言葉です。

●シンポジウム 「～～就労を促進するための各地域の取り組み～～」

岡本慶子氏 京都市こころ健康増進センター医師

統合失調症の人の就労を支援する事業「就労準備デイ・ケア」の取り組みについて報告。

一般就労を目指し、職場実習（社会適応訓練事業）を重視。あわせて、働くためのSST（対人技能）、働くための心理教育（病気と付き合う技能）、働き、暮らすための情報提供、体力や自信をつけるための活動やそれらをとおしての仲間づくりなどを柱とした活動を実施。センターのデイ・ケアスタッフがジョブパートナーとして、職場実習、ハローワーク等の利用から就労後までをサポートしているとのこと。「当事者が力をつけ、自分で方向を選び、自分で社会資源を使い、自分で働く」ことを目指して支援をしているとのことであり、全国の精神保健福祉センターとしては、数少ない貴重な試みといえる。

「医療との連携による就労移行支援」の取り組みについて報告。

NPO法人 大阪精神障害者支援ネットワークは、大阪府の精神科診療所の医師が中心となってNPO法人を立ち上げたのが特徴（平成19年5月）。あるクリニックでのアンケートで「これからしていきたいことは？」に「仕事をしたい」が85%にもものぼり、これまで医師として「あなたは、病気の療養という“大仕事”をしているのだから、焦って仕事をしようと思わなくても良いでしょう・・・」といったことへの反省が出発点。精神障害者の就労支援には医療面でのサポートが不可欠、医療機関が就労支援に協力するという強みを活かしながら、JSN施設内で基礎訓練から実習先や職場開拓、就労後の継続支援を視野に入れて一貫した就労支援を志しているとのことである。

大場俊孝氏 株式会社大場製作所 代表取締役

小企業経営者によるNPO法人栗原市障害者就労支援センター「ステップアップ」の開設（平成20年4月）に向けて準備をすすめていることの報告。

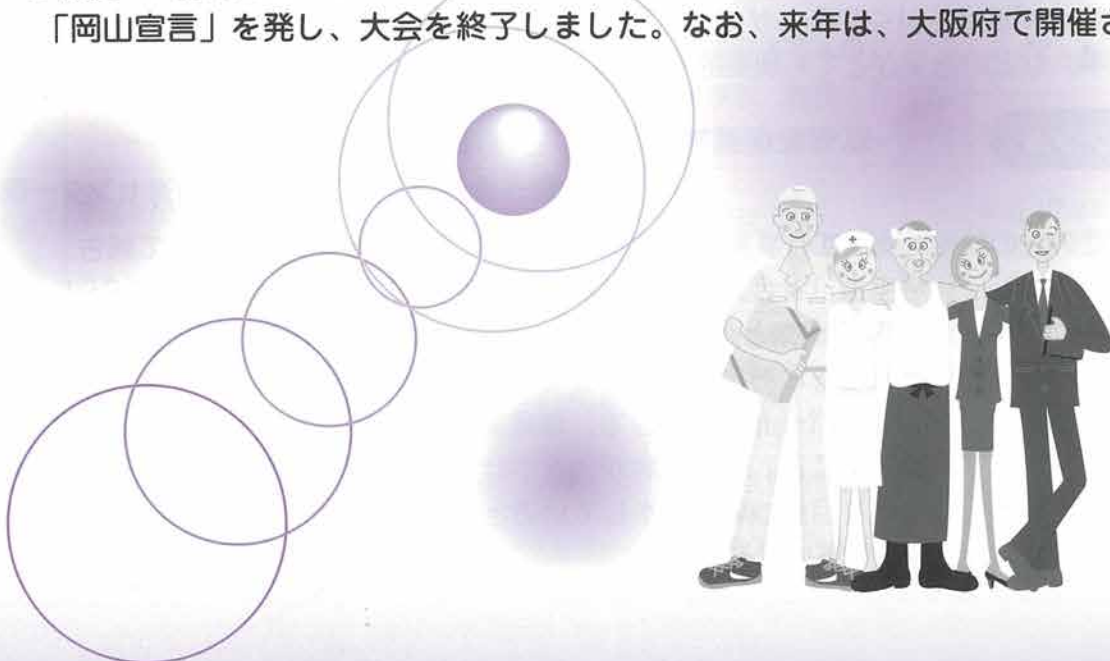
理事15名（5社）全員が企業経営者で構成。3障害を対象に、市内6箇所の作業所を1箇所に集約して機能別にして管理運営し、就労支援を行おうとしているとのこと。機能別とは、①就労移行支援事業、②就労継続支援B型事業、③サロンの作業所、④相談事業・生活支援の4つに分けて、③④は、市からの委託事業となる。

市主導での精神障害者就労支援ネットワーク会議が開催されていること、当事業所の障害者雇用や職場訓練に協力していることの実践が、このたびの就労センターの設置に繋がっている。また、保健師の関わりがキーワードとのことである。

徳山雅之氏 岡山県保健福祉部健康対策課課長

岡山県では、全県的に「就労支援促進体制整備事業」を実施し、岡山職親会と協働して、地域における支援機関との連携を図り、ネットワークの構築を図っていることである。

○最後に、精神障害者社会適応訓練事業を後退させず、より一層の充実等を求めた「岡山宣言」を発し、大会を終了しました。なお、来年は、大阪府で開催されます。





総会に代えて、紙面で会員の皆様にご報告します

事業名	年月日	場 所	内 容
1. 総会・精神障害者就労支援研修会（県全域）	18. 7. 26(水)	こころのケアセンター 大研修室	*事業報告及び事業計画 *講演 「精神障害者の就労支援の実際～兵庫障害者職業センターの取り組みを通じて～」 講師：兵庫障害者職業センター障害者職業カウンセラー 田中 章夫、大崎 伸子 参加者106名
2. 社会復帰事業関係者及び職親合同研修会（地域限定）	19. 1. 17(水)	洲本健康福祉事務所	*講演 「精神障害者の就労をめぐる現状」 講師：兵庫障害者職業センターカウンセラー 大崎伸子氏 参加者26名
	19. 1. 20(土)	川西市総合センター	*講演 「精神障害者の働きたいを実現するために～就労を目指す精神障害者に企業が求めているものは何か～」 講師：兵庫県精神保健職親会 会長 森本 稔氏 神戸公共職業安定所 貞丸 けい子氏 参加者44名
	19. 2. 7(水)	西脇健康福祉事務所	*講演 「障害者職業センターの利用方法と、職業適性検査について学」 講師：兵庫障害者職業センターカウンセラー 山口久尚氏 参加者19名
	19. 3. 26(月)	赤穂健康福祉事務所	「通院リハビリテーション事業の概要と報告」 *情報交換 職親、西播磨障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、市町、地域関係者など 参加者23名
3. 役員会	18. 6. 23(金)	精神保健福祉センター	議題「活動結果及び今年度の活動について」 (11名)
	18. 12. 9(土)	県民会館 会議室	議題「職親会10周年記念事業、事業所開拓について」 (9名)
4. 広報普及	19. 1. 19. 3. 随 時	・ひょうご職親会だより 第19号 3,000部 発行・配布 ・ 第20号 3,000部 ・リーフレット「手伝って下さい！職場への第1歩」	
5. 他機関との連携・協力	18. 5. 29(月)	兵庫県農業共済会館	第1回障害者雇用・就業ネットワーク会議 (会長、事務局1名)
	18. 10. 14(土) ～ 15(日)	県立障害者スポーツ交流館	第6回全国精神障害者スポーツ（バレーボール）大会 後援 (会長)
	18. 10. 31(火)	兵庫県農業共済会館	第2回障害者雇用・就業ネットワーク会議 (会長、事務局1名)
	18. 12. 3(日)	兵庫中央労働センター	国際福祉セミナー 後援
	18. 11. 3(祝)	神戸メリケンパーク	ハートフェスタ後援・鉢植え提供
	19. 1. 6(土)	クラウンプラザ神戸	兵庫県精神科病院協会新春祝賀会 (会長)
6. 全国職親会への協力	19. 2. 1(木)	ひょうご女性交流館	第3回障害者雇用・就業ネットワーク会議 (事務局1名)
	18. 9. 8(金) ～ 9(土)	ホテル松島大観荘	平成18年度全国精神障害者社会適応訓練事業研修会 宮城大会 (会長・事務局1名)
	19. 3. 9(金) ～ 10(土)	障害者職業総合センター（千葉市）	第18回全国精神職親研究会 (会長・事務局1名)
	18. 11. 19(日)	東京都恵友記念会館	全国精神障害者就労支援事業所連合会役員会 (会長)
	19. 2. 25(日)	東京都赤羽会館	〃 〃

(参考)

事業所数（稼働事業所数）	294 (70)	職親会員数	59	訓練生数	115
--------------	----------	-------	----	------	-----

(平成19年3月31日現在)

お知らせコーナー



当職親会も参画している全国精神障害者就労支援事業所連合会（旧称：全国精神保健職親会連合会）が、下記のアドレスでホームページを作成しています。

- ① ニュース・お知らせ
- ② イベント情報
- ③ 職親紹介（掲載準備中）
- ④ 活動報告
- ⑤ 就労支援の知識
- ⑥ 出版物のご案内 など、

就労支援に関わる方にとっては、耳寄りな情報が盛りだくさんです。是非、一度のぞいて見て下さい。

<http://vfooster.org/>

また、広報誌「メンタルヘルスユーザーのためのしごと応援団 JOB MENTOR（ジョブメンター）」を発行しています。（JOB：仕事、MENTOR：仕事や人生に効果的なアドバイスをしてくれる助言者のこと）

兵庫県精神保健職親会 森本会長が兵庫県福祉功労賞を受賞しました。



平成19年5月24日、県公館において、「社会の福祉又は民生の安定に寄与し、その功績が特にすぐれた者」として、当会の森本会長が当職親会活動をはじめとする多くの福祉功労が認められ、兵庫県 井戸知事から「福祉功労賞」をいただきました。

おめでとうございます。

兵庫県精神保健職親会 会員及び賛助会員 募集中

会 員（社適事業所に限る。 年会費3,000円）と

賛助会員（任意の個人又は団体。年会費1,000円）を募集しております。

【事務局】 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-3-2

兵庫県精神保健職親会 （県立精神保健福祉センター内）

Tel 078-252-4980 Fax 078-252-4981

※ この「職親会だより」は、兵庫県からの委託により作成しています。